

中日教育賞 11人が受賞

名古屋で贈呈式

中部九県の優れた教育者をたたえ、今年で五十回を迎えた中日教育賞の贈呈式が二十六日、名古屋・栄の中日パレスで開かれた。節目の今年には各地の教育委員会などに推薦された百二十五人から十一人が選ばれた。

贈呈式で、中日新聞社の大島宇一郎社長は、五十年前の第一回の賞選考を伝える社報に触れて「選考委員からは『地味でも良いから、こつこつと成果を上げている人を発掘しよう』という意見が出ていた。半世紀の節目を迎えた今日にも受け継がれている精神だ」とあいさつ。受賞者に、正賞の置き時計と賞額、副賞

四十万円を贈った。

来賓の後藤ひとみ愛知教育大学長と、植田健男・名古屋大教育学部長が祝辞を述べた。名古屋市教育局委員会の杉崎正美教育長と、岐阜県教委の安福正寿教育長ら中部各県の教育関係者も節目の式典に出席した。

受賞者を代表し、岐阜県本巣市数学校研究会前会長の久綱正和さん(モモ)が「活動を評価していただき、感

謝します」と謝辞を述べた。

◇受賞者の皆さん

名古屋市長上社中学校校長、高橋美行「生徒が生きる社会科教育の充実」▽愛知県一宮市立大和西小学校校長、長谷川濃里「算数・数学教育の推進と教員養成」▽同県・環境ボランティアサークル「亀の子隊」代表、鈴木吉春「海を舞台とした子どもへの情操教育」▽岐阜県本巣市数学校研究会前会長、久綱正和「数学のまちづくり」▽三重県鳥羽市立菅島小学校教頭、広川清治「離島における『島っ子ガイド』の育成」▽浜松市教育委員会学校教育指導課主幹外国人支援グループ長、桜井敬子「外国人児童への日本語指導体制の構築」▽長野県上伊那農業高校教諭畜産班顧問、境久雄「害獣のシラを使った特産品開発と地域振興」▽滋賀県東近江市教育委員会学校教育課所属学校司書、速水須美江「学校図書館教育の充実」▽福井市木田小学校教諭、中谷幸子「『白川文字学』を活用した漢字教育の実践」▽石川県・サイエンスヒルズこまつ ひとものづくり科学館副館長、浅野幸恵「子どもから大人まで夢を育む理科教育の振興」▽富山県立八尾高校特別活動講師、島崎竹志「郷土芸能を通じた地域・国際交流の推進」



第50回中日教育賞を受賞した皆さん 26日午前、名古屋・栄の中日パレスで